

◎不登校の子どもの各時期における子どもの状態・支援の方向性

子どもの心の状態	混乱		停滞		試行	自発
時期	前兆期	初期	中期		後期	復帰期
（次のような状態を示すことが多い） 子どもの状態	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝起きられなくなる ○ 休み時間に1人であることが多くなる ○ 宿題など、学習をしなくなる ○ 忘れ物が多くなる ○ 保健室を頻繁に利用するようになる ○ 身体症状を訴えるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 腹痛・頭痛・発熱などの身体症状が、時々見られる ○ 食事・睡眠時間などでの生活の乱れが時々起きる ○ 物や人にあたるなどの攻撃性が高まる ○ 感情や行動のコントロールができない ○ 恐怖心が強く、人目を避け外出しなくなる ○ 学校の話に激しい拒否感を示す 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部屋に閉じこもって外出なくなる ○ 今までしていた手伝いをしなくなる ○ 昼夜逆転の生活をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちが外に向き、活動の意欲が出る ○ 趣味や遊びに関心が湧く ○ 気持ちを言葉で表現する ○ 手伝いや家族への気遣いをする ○ 教育支援センターや相談機関に通い始める 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分を肯定する言葉が出てくる ○ 進学や就職の話をする時、笑顔があらわれる ○ 学習を始める ○ 担任や級友などの学校関係者に会う ○ 登校や進学・就職に向けて動き出す 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活のリズムが整う ○ 相談室や保健室への登校ができるようになる ○ 休日や夕方に友人と遊ぶようになる ○ 家族とよく話をするようになる ○ 好きな教科の学習に取り組むようになる
方支 向援 性 の	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者が先生やSC・SSWらと定期的に情報交換をする ○ 身体症状に配慮する（医療機関受診を含む） 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談機関と連携する（保護者） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本人が相談機関や教育支援センターとつながる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校は受け入れの態勢づくりをする。（別室登校などの検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの活動に参加するかなど、自己決定を促す（授業の部分参加など）